

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月 日実施)	総合評価 (3月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①研究開発に取り組んだ成果を地域の高校へ普及する。</p> <p>②学力の充実を目指し、バランスの取れた教育課程を編成する。</p> <p>③英語教育の推進により、生徒の英語力の向上を図る。</p> <p>④主体的に学ぶ意欲を高め、探究活動を充実させる授業改善に取り組む。</p>	<p>①授業力向上推進重点校として、「主体的な学び」に焦点を当てて研究を進め、その成果を他校に発信する。</p> <p>②指導と評価の一体化を図る。</p> <p>③英語教育のさらなる充実を図り、英語4技能をバランス良く向上させる。</p> <p>④生徒が主体的に学ぶように、学習や課題研究の方法といった「道しるべ」を示す。</p>	<p>①「主体的な学び」の実現に向けた授業スタイルや評価方法を研究する。</p> <p>②「主体的に学習に取り組む態度」と他2観点との整合性がある評価方法を確立する。</p> <p>③英検2級取得を卒業までの目標とし、4技能定着に向けた教科指導法について研究を進める。</p> <p>④総合的な探究の時間で、「仮説→実証→考察」までの探究活動の骨組みを全学年で共有する。</p> <p>④キャリアパスポートの電子データ化を進める。</p> <p>④1人1台端末を活用した授業や家庭学習のより効果的な活用方法について研究を進めていく。</p>	<p>①「魅力と特色づくりのアンケート」の該当項目の肯定的回答(A-4)が90%以上であるか。</p> <p>②「努力しているのに学力が身に付いていない」またはその逆の評価がないか。</p> <p>③英検2級合格者が10人以上であるか。</p> <p>④総合的な探究の時間で、「仮説→実証→考察」までの探究活動の骨組みが全学年で共有されているか。</p> <p>④全学年でキャリアパスポートの電子化を進めたか。</p> <p>④公開研究授業において、1人1台端末を活用した取組みを実施したか。</p>					
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①礼節を重んじ規範意識を高める。</p> <p>②教育相談体制を充実させ、生徒一人ひとりに対しきめ細かな支援を行う。</p> <p>③生徒会、委員会活動、部活動を通して責任感や連帯感の涵養を図り、自己肯定感を育む。</p>	<p>①挨拶の励行を通して、地域から愛され、気持ちよく通える学校を目指す。</p> <p>②必要に応じて専門家や外部関係機関と連携して、課題を抱える生徒の支援に当たる。</p> <p>③学校行事を通して生徒に達成感を与え、自己肯定感を高める。特に、1年生については、日常の声掛け等を通して状況を把握し、きめ細かい支援に当たる。</p>	<p>①朝のホームルーム等教育活動の様々な場面で、挨拶することがなげ良いかといったことを伝えていく。</p> <p>②SC・SSWの各校配置を効果的に活用し、課題の早期発見・早期対応に努める。</p> <p>③学校行事を可能な限り再開していく。その際、単純にコロナ前の形態に戻すのではなく、生徒による動画の作成・上映など、コロナ禍で進化した取組みも継続していく。</p> <p>③1年の担任等と連携し、新入生が何を期待して入学したのかなどを把握してリアリティショックを和らげる方策を考え</p>	<p>①「学校の近隣で挨拶しようとしている」生徒の割合が5割程度であるか。</p> <p>②課題を抱える生徒に対して効果的な支援ができたか。</p> <p>③学校行事等を通して、コミュニケーション能力を高め、主体的・積極的に活動できたか、また生徒の自主性を育成することができたか。</p> <p>③自己肯定感を10段階で点数化した値が減少していないか。</p>					

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月 日実施)	総合評価(3月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①キャリア教育を充実させ、社会でより良く生きるための諸能力を育成する。 ②「行きたい」上級学校への進路実現のため、進路ガイダンスの充実を図る。	①「行きたいところに行く」進路を実現するために、総合的な探究の時間の活用や外部関係機関との連携によって、生徒に将来像をイメージさせる。 ②キャリアパスポートを活用して、これまでの成果を振り返る。	①総合的な探究の時間、地域や関係諸機関との連携などを通して、3年間を見通した進路指導計画を作成させて、生徒の進路支援に当たる。 ②生徒一人ひとりが管理できるようにキャリアパスポートの電子データ化を進める。 ③外部機関と連携したインターンシップを実施し、生徒自身のキャリアプランニング能力を高める。	①「魅力と特色づくりのアンケート」の該当項目(B-9)の肯定的回答が90%以上であるか。 ②全学年でキャリアパスポートの電子化を進めたか。 ③「魅力と特色づくりのアンケート」の該当項目(B-9)の肯定的回答が80%以上であるか。					
4	地域等との協働	①コミュニティ・スクールとして地域に開かれ、地域とともにある学校づくりを目指す。 ②ボランティア・バンクの充実を図り、地域と連携した活動を推進する。 ③地域のソーシャル・キャピタルを積極的に活用する。	①学校運営協議会の委員と協議して、より魅力的な「曾屋高」をつくり上げていく。 ②③地域のボランティア活動に積極的参加することで、生徒の自己肯定感を高めるとともに、職業観も醸成する。 ③生徒の主体的な学びを充実させるために、曾屋塾の講座を増設する。	①HPの更新を迅速に行う。また、生徒が作成した動画をより多く掲載し、本校の「ありのままの姿」を広く発信していく。 ②ボランティアバンクに加えて、Google Classroomでもボランティア募集について周知する。 ③夏季福祉体験について受け入れ団体との連絡を密にして、安全な活動を通して生徒の職業観を醸成する。 ④曾屋塾において、生徒が要望する数学の講座を開設し、幅広く、チャレンジ精神の旺盛な人材を育成していく。	①魅力的なHP動画を制作できたか。HPのこまめな更新ができたか。 ②生徒会や部活動が、学校の代表として、地域で有意義な活動ができたか。 ③夏季福祉体験を通して有意義な活動ができたか。 ④曾屋塾の塾生が、他の生徒に好影響を与えるような存在であったか。					
5	学校管理 学校運営	①防災体制を確立するとともに、生徒の防災意識を高める。 ②学校内の教育環境をより一層整備する。	①全ての生徒が、通学途中や学校での活動中に災害に遭った際の行動について考える機会を設ける。 ②清掃活動を通して地域に貢献し、生徒の自己肯定感を高める。また、PTAともさらに連携していく。	①年3回以上の防災訓練を行い、生徒と職員の防災意識を高めていく。また、DIG訓練を通して地域との連携を踏まえた防災教育を行っていく。 ②ふれあい美化清掃を通して、PTAとの連携を深めていく。 ③地域貢献活動、美化委員の活動や通常の清掃活動を通して校内の教育環境の美化を進めていく。	①避難訓練やDIG訓練が効果的に実施できたか。 ②これまで以上に校内の美化が図れたか。					